

会期 2014年 10/22(水)～10/24(金) 10:00～17:00

会場 ポートメッセなごや (名古屋国際展示場 3号館) 主催 名古屋国際見本市委員会

名古屋駅より「あおなみ線」で24分 金城ふ頭駅下車徒歩5分
構成：名古屋市、愛知県、名古屋商工会議所、日本貿易振興機構(ジェトロ)、
名古屋貿易情報センター、(公財)名古屋産業振興公社

参加無料

NO.11 10月22日(水) 13:00～16:30

快適性開発研究会セミナー ～自然室温で暮らせる家～

共催：(独)産業技術総合研究所、名古屋駅前イノベーションハブ

住宅などのエネルギー対策技術では、創エネ、蓄エネ、省エネの各分野で開発がすすめられています。

快適性開発研究会では、“創・蓄・省”を効果的に使う方策として「環境ハーモニック建材」の開発による「自然環境で暮らせる家」創りを目指す議論をしています。

「環境ハーモニック建材」とは、環境応答や環境改善などをキーワードとし、環境変化に応答する材料であり、快適な省エネに貢献する各種の材料技術を指します。例えば、居住者が意識せずに省エネが行われるよう、材料の最適化やスマート化により快適環境を確保することを目的としています。

今回、「自然環境で暮らせる家」創りについて議論喚起、到達点の共有、事例紹介を目的として、以下の通りセミナーを実施します。住宅、建材関係の皆様はもちろん、空間の環境に関わる各方面からもご参加いただきますようご案内申し上げます。

13:30～14:40 【逐次通訳あり】

“Materials for energy efficient buildings in Europe and Japan”

～省エネルギー型建築材料・ヨーロッパと日本～

(独)産業技術総合研究所 上席イノベーションコーディネータ

元 フラウンホーファー日本代表部 代表 Dr.Lorenz Granrath 氏



ドイツでは、建築の新旧を問わず省エネルギー基準を満たさなければなりません。これによって建築のコンセプトの構築、及び、新建築部材の開発が進んでいます。エネルギーは主に家の3つの部位から消費されます。「窓」、「壁」、「不必要な通風」です。講演では、これらの問題に取り組むいくつかの開発例を紹介します。

14:50～15:50

快適な住まいは建築外皮の構成から

～エクセルギー研究が明らかにしてきたこと～

東京都市大学 環境学部 環境創生学科 教授 宿谷 昌則 氏



私たち人が建物の内であって過ごす時間は、人生80年として70年を越えます。したがって、人にとって不「快」でない「適」切な建築環境づくりは極めて重要です。その基本は、室内空間を、建築外皮を、適切な物性をもつ材料で構成することです。何故そう言えるのか。本講演では、近年のエクセルギー研究が明らかにしてきた「人の内なる自然と建築の関係」の視点からお話します。

16:00～16:30

窓を鏡にすることで冷房負荷を大幅に低減

～鏡状態と透明状態を切り替えることができる“調光ミラー”の実用化を目指して～

(独)産業技術総合研究所 サステナブルマテリアル研究部門 環境応答機能薄膜研究グループ 主任研究員 山田 保誠 氏



窓ガラスは、大きな熱の出入口となっており、外部から入ってくる光の透過率を調節(調光)することにより大きな省エネルギー効果が期待されます。総研はこれまで、鏡状態と透明状態を切り替えることができる“調光ミラー”を開発しており、新たに透明時の可視光透過率が70%以上の“調光ミラー”を開発しました。これを窓ガラスに用いることにより、透明な複層ガラスに比べ夏場の冷房負荷低減効果が期待できるほか、自動車のフロントガラスに適用可能となります。

参加無料。申込は、TECH Biz EXPO ホームページより。来場事前登録をしてお申込みください。

<http://www.techbizexpo.com/event/index.html#no11>